

第36期第18回常任理事会議事録

日 時：2012年2月23日（木）13時30分～17時00分

会 場：日本気象学会事務室（気象庁8階）

出席者：新野，藤谷，岩崎，経田，徳廣，中村，藤部，以上7名（常任理事現在数13名）

欠席者：近藤，佐藤，田中，中島，三上，余田，以上6名

その他の出席者：田沢，萩原，渡辺（事務局）

議 事

1. 第36期第17回常任理事会議事録の確認

2. 会員の新規加入等について

新入会員21，退会16を全会一致で承認。2012年2月21日現在，会員数3,741名で通常会員は1,053名。

3. 原子力発電所の事故発生時に対する対策のあり方に関する提言について

提言内容を承認し，理事会への照会と提言の送付を速やかに行うことを了承した。

4. 「天気」第三種郵便の取扱いについて

第三種郵便承認を得るために機関誌「天気」に購読料を設定するという郵便事業会社の指導は，当会では問題が多いことが議論された。現状では第三種郵便承認を得るメリットは小さいことを確認し，認可取消となってもやむを得ないことを了解した。

5. 総会の準備状況について

総会までのスケジュール，2011年度事業報告案と2012年度事業計画案，収支予算案の経常収支の増減内容について報告があった。

6. 各委員会からの報告

庶務…

1) 転載許可

転載元：Tanaka, M, 1994: The onset and retreat dates of the Austral Summer Monsoon over Indonesia, Australia and New Guinea. *J.Meteor.Soc.Japan*, 72, 255-267 Fig4, Fig5

Yanai, M., C. Li, and Z. Song, 1992: Seasonal heating of the Tibetan Plateau and its effects on the evolution of the Asian summer monsoon. *J.Meteor.Soc.Japan*, 70, 319-351, Fig. 20c

Krishnamurti T. N., M. C. Sinha, R. Krishnamurti, D. Oosterhof, and J. Comeaux, 1992a: Angular momentum, Length of day, and monsoonal low Frequency mode, *J.Meteor.Soc.Japan*, 1B, 131-166, Fig9, Fig10, Fig11

転載先：「Tropical Meteorology」, Authors: T. N. Krishnamurti, L. Stefanova and V. Misra, Publisher: Springer

2) 後援名義等使用依頼受付

名称：京コンピューター・シンポジウム 2012 および 第2回戦略プログラム5分野合同ワークショップ

主催：理化学研究所（計算科学研究機構:AICS）

期日：2012年6月14日～15日

場所：神戸大学新国際会議場

名義：後援

3) その他

2月9日：第37期役員候補選挙投票開始された。

2月10日：2012年度奨励賞推薦締切（6件応募）

会計…2012年1月分の収支及び現預金検査報告。

天気…Vol. 59 No. 2（2012年2月号）の掲載記事と，Vol. 59 No. 3, 4（2012年3, 4月号）の予定記事の報告。

気象集誌…Vol. 90 No. 2の掲載予定記事の報告。

気象研究ノート…第225号「2010年夏の猛暑」を4月頃発刊予定であることが報告された。

講演企画…2012年度春季大会の準備状況の報告。

総合計画…公益社団法人化に向けて，情報公開規程等の各規程類の案を作成していることが報告された。

学会賞…推薦理由についてチェックした。

藤原賞…推薦委員会から理事長に推薦され，推薦理由等についてチェックした。今後，全理事による投票により受賞者が決定される。

- ・委員会における推薦基準に関する議論の概要が報告された。今後も，検討を行っていくこととなった。

電子情報…学会HPの移転先ホスティングサービスとしたKDDIのサービス利用申し込みをしたこと，新アドレスは www.metsoc.or.jp であることが報告された。

7. その他

1) 2013年度から予定されている科学研究費補助金の運用の変更に関する日本地球惑星科学連合の説明会出席報告があった。文科省は電子ジャーナル化事業への補助や大規模学会への一括補助等を検討しており，今後，連合としての対応を考えていきたいので，傘下の学協会の協力を得たいとの主旨。

2) 山田哲二博士より，2013年1月の米国気象学会年会にて企画する福島原子力発電所事故に関するワークショップへの参加と提案の依頼あり。参加で検討を進めることを了承した。

平成24年3月15日

社団法人日本気象学会

議長 新野 宏

署名人 藤谷徳之助

署名人 経田 正幸